

令和9年度 公立学校教員採用候補者選考試験問題

特別支援教育

1 / 5 枚中

注意1 答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。

注意2 「障がい」の記載について、法令、学習指導要領、学習指導要領解説等からの引用によるものは、「障害」と表記した。

注意3 解答用紙への「障がい」の表記については、「障がい」、「障害」または「障碍」のいずれを記入してもよい。

第1問題 次の文は「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月）に示されている「第I部総論」の「3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿（1）子供の学び」からの一部抜粋である。後の問に答えよ。

学校における授業づくりに当たっては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の要素が組み合わさって実現されていくことが多いと考えられる。各学校においては、アに  
あてはまる語句を、A～Hから選び、記号で答えよ。

問1 文中の ア ～ エ にあてはまる語句を、A～Hから選び、記号で答えよ。

- A 教師の専門性      B 一体的      C 教科等の特質      D 自律的な学び      E 深い学び  
F 普遍的      G 家庭や地域      H 就労先

問2 現行の学習指導要領において育成を目指す資質・能力の3つの柱について、すべて答えよ。

問3 文中の下線部①について、一層の充実を図っていくために、ICTの活用が考えられる。次の（1）（2）の問に答えよ。

- （1）視覚障がい者である児童生徒に対してはICTのどのような効果的活用が考えられるか、簡潔に二つ答えよ。  
（2）授業におけるICT活用による児童生徒の「健康面」への影響等に関する配慮としてどのようなことが考えられるか、簡潔に一つ答えよ。

問4 文中の下線部②に関する次の（1）～（5）の記述について、適切なものに○、適切でないものに×を記せ。

- （1）単に知識を記憶する学びだけにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるようにしていく必要がある。  
（2）特定の指導方法の「型」の普及を図っていくことが重要である。  
（3）Aさんにとって効果の高い学び方は、Bさんにとっても効果的で質の高い学び方になる可能性が高い。  
（4）それぞれの子供が異なる学習課題に対して一人で学んでいる姿が理想である。  
（5）一人一人の学習特性に応じた学びにより、誰一人取り残さず全ての子どもに資質・能力の育成を目指していく必要がある。

第2問題 次の文は「小学校等における医療的ケア実施支援資料～医療的ケア児を安心・安全に受け入れるために～」(文部科学省 令和3年6月)に示されている「第2編 第1章 3 教職員の役割」からの一部抜粋である。後の問に答えよ。

小学校等において看護師等が①医療的ケアを行うに当たって、教職員は、医療的ケアを小学校等において行う  や必要な衛生環境などについて理解するとともに、学級担任をはじめ教職員により行われる日常的な子供の  を通じて、看護師等と必要な情報共有を行い、②緊急時にはあらかじめ定められた役割分担に基づき対応することが、特に重要である。

また、教職員が、看護師等の管理下において、医療的ケア以外の支援、例えば、医療機械・器具の装着時に衣服の着脱を手伝ったり、医療的ケアを受けやすい  等の補助を行ったりすることは可能であり、教職員と看護師等とが連携して医療的ケア児の支援に当たることが重要である。

問1 文中の  ～  にあてはまる語を、A～Gから選び、記号で答えよ。

- A 専門的知識      B 教育的意義      C 姿勢保持      D 見立て      E 役割  
F 酸素管理      G 健康状態の把握

問2 文中の下線部①について、次の(1)～(3)の説明として適切なものを、後のA～Eからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- (1) 喀痰吸引  
(2) 経管栄養  
(3) 気管切開部管理

- A 低酸素血症、誤嚥による気管支炎・肺炎を防ぐために必要なケアである。  
B 嘔吐時や喫食時間の遅延などにより、予期せぬ低血糖症状に陥る危険性があるので、速やかに補食できるような体制を整えておく必要がある。  
C 気管カニューレに人工鼻を装着することで、下気道の乾燥を防ぐことができたり、スピーチバルブを用いることで発声することができたりする。  
D 二分脊椎及び脳性麻痺、外傷による脊髄損傷などにより、排尿の機能に障がいがある場合に行うケアである。  
E 安全で確実な栄養や水分の摂取が確保され、身体的な機能の保持及び改善に繋がることを期待される。

問3 文中の下線部②について、内容に誤りを含むものをA～Eから二つ選び、記号で答えよ。

- A 緊急時の対応を含めた個別マニュアルは、その場の状況に応じた対応を阻害することがあるため、作成は控えたほうがよい。  
B 苦しげな表情が見られたり、痰が絡んだような呼吸音が聞こえたりするなどの場合、担任は、速やかに看護師等に連絡できるよう、正常時の状態をよく理解しておくことが重要である。  
C 緊急時にはとりわけ保護者と連携した対応が求められるため、日頃から保護者に付添いの協力を求めることが重要である。  
D 酸素療法を行っている医療的ケア児の酸素ボンベが転倒した場合、マスクが外れていないかどうか、酸素供給量が適切に保たれているかを確認の上、すぐに看護師等にその旨を伝えることが重要である。  
E 気管カニューレが抜けても問題なく長時間過ごせる医療的ケア児がいる一方で、気管カニューレが抜けると急速に気管孔が狭くなり、呼吸状態が苦しくなる医療的ケア児もいる。

問4 近年、医療的ケア児が、小学校、中学校、高等学校等に在籍するケースが増加している。こうした状況下において、特別支援学校が、小学校や中学校等の要請に応じて、特別支援教育に関する専門的な助言又は援助を行う必要性が高まってきている。この特別支援学校が地域の学校等に対して担っている機能を何というか、次の空欄  エ  に当てはまる語を答えよ。

特別支援学校の  エ  機能

第3問題 次の事例について後の問に答えよ。

児童Aは、自閉症と知的障がい併せ有する小学4年生で、3年生の頃より自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍している。国語や算数では、言葉の意味理解に難しさがあり、自分の考えを伝える力や人とのコミュニケーションに明らかな課題があることから、学習内容の定着に人一倍時間がかかっている。周囲の声や物音への過敏さから集中が途切れやすく、授業中にイライラして物に当たったり、大きな声を出したりすることもある。一方、デジタル教材にはとても興味を示しており、ICT支援員と一緒に良い表情で学習に向かえることもある。

問1 児童A及び保護者等との合意形成が図られたことを前提とした上で、児童Aに対する「合理的配慮」として考えられることについて、次の(1)～(3)の観点ごとに簡潔に答えよ。

- (1) 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- (2) 学習内容の変更・調整
- (3) 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

問2 次の文は、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(文部科学省 令和3年6月)に示されている「合理的配慮」の定義等について説明したものである。文中の  ア  ～  エ  にあてはまる語をそれぞれ漢字2文字で答えよ。

合理的配慮は、「障害者の  ア  に関する条約」第2条の定義において提唱された概念であり、その定義に照らし、我が国の学校教育においては、中央教育審議会初等中等教育分科会報告において、合理的配慮とは、「障害のある子どもが、他の子どもと  イ  に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は  ウ  の負担を課さないもの」と定義されている。なお、障害者の  ア  に関する条約において、合理的配慮の否定は、障害を理由とする  エ  に含まれるとされていることに留意する必要がある。

問3 次の説明文が示す「教育の仕組み」のことを何と言うか答えよ。

「人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み」

第4問題 「生徒指導提要」(文部科学省 令和4年12月)の「第13章 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導 13.1.4 学校における組織的な対応 13.1.5 関係機関との連携」について次の問に答えよ。

問1 文中の  にあてはまる語を答えよ。

発達障害を含む障害等に対する特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援については、校内の支援体制がうまく機能するように、特別支援教育  を中心に校内委員会で検討します。

問2 特別な教育的ニーズのある児童生徒への支援に関する次の(1)～(3)の記述について、適切なものに○、適切でないものに×を記せ。

- (1) 行動面の指導に当たっては、起きている行動に着目して対応を検討し、失敗に対して繰り返し修正することが重要である。
- (2) 対人関係については、イラストやロールプレイを用いるなどして、具体的な指導や支援を行うようにする。
- (3) 児童生徒が実力を発揮できるように、強みを活かした学習方法に変えたり、合理的配慮を用いたりする。

問3 多様な背景を持つ児童生徒への生徒指導において、関係機関と連携する際に重要な点を説明した次の(1)～(3)の記述について、～にあてはまる語を答えよ。

- (1) 連携する  と内容を明確にする。
- (2) 教職員と  が信頼関係を構築する。
- (3) 個別の  を活用する。

#### 第5問題 次の問に答えよ。

問1 特別支援学校の対象となる視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者の障がいの程度を具体的に示した法令名を答えよ。

問2 肢体不自由のある児童生徒が効果的に学習するためには、学習時の姿勢や認知の特性等に応じて指導の工夫をする必要がある。これについて、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)「第4 肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校」の中では具体的にどのように書かれているか。一つ答えよ。

問3 次の(1)～(4)は、脳性まひの神経症状による病型分類である。これらの説明として適切なものを、後のA～Dから一つずつ選び記号で答えよ。

- (1) 固縮型      (2) 痙直型      (3) アテトーゼ型      (4) 失調型

- A バランスをとるための平衡機能の障がいと運動の微細なコントロールのための調節機能の障がいを特徴とする。  
B 手や足、特に足のふくらはぎの筋肉等の痙性により円滑な運動が妨げられる症状が主である。  
C 上肢や下肢を屈伸する場合に、鉛の管を屈伸するような抵抗感があるもので、四肢まひに多い。  
D 頸部と上肢に不随意運動がよく見られ、下肢にもそれが現れる一群。

問4 脳性まひのある子どもに見られる特性について説明した文として、適切なものをA～Dから二つ選び、記号で答えよ。

- A 話すことに使われる筋肉の調節が損なわれるまひ性構音障がいがある場合、言葉の理解能力が損なわれる。  
B 感覚障がいの代表的なものに、認知を含む視覚障がいと聴覚障がいがあり、学習活動を困難にすることが多い。  
C 注意が特定の対象に集中できず、周囲の刺激に無選択的に反応してしまう固執性が見られることがある。  
D 情報機器を活用して、コミュニケーション手段の工夫をすることで潜在的な能力を発揮できる場合がある。

## 第6問題 次の事例について後の問に答えよ。

A児は、通常の学級に在籍する小学校2年の児童である。1年生の頃より文章を目で追いながら音読することが難しく、①読むことの困難さがあったため、2年生から②通級による指導を受けるようになった。通常の学級の担任である教師Bは、通級による指導における取組を参考にして、指導上の工夫や個に応じた手立てを検討しながら授業を行っている。

- 問1 文中の下線部①について、通常の学級で必要な指導上の工夫や個に応じた手立てとして考えられることを簡潔に二つ答えよ。
- 問2 文中の下線部②について、「障害に応じた通級による指導の手引 解説とQ&A（改定第3版）」（平成30年8月）では、対象となる障がい種が九つ挙げられている。そのうち三つを答えよ。
- 問3 通級による指導に関する次の（1）～（3）の記述について、適切なものに○、適切でないものに×を記せ。
- （1）通級による指導においては、通常の学級における各教科の学習の遅れを取り戻すための指導を行うことが大切である。
  - （2）通級による指導は、高等学校、中等教育学校（後期課程）において制度化されていない。
  - （3）本人が自分の得意・不得意などの特性を理解し、得意な学習の方法や自分に適した学習の方法について認識できるような指導が求められる。

## 第7問題 次の問に答えよ。

- 問1 ウェクスラー児童用知能検査の略称をアルファベット4文字で答えよ。
- 問2 教科書の内容を音声化したものの総称を漢字4文字で答えよ。
- 問3 膵臓から分泌されるインスリンの不足により、ブドウ糖をカロリーとして細胞内に取り込むことができない代謝異常の病名は何か、答えよ。
- 問4 「各教科等を合わせた指導」のうち、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に身に付けることを目的とした学習は何か、答えよ。
- 問5 視力以外の視機能障がいである光覚障がいにおいて、うす暗い光の中で目が慣れるのに著しく時間がかかる障がいは何か、答えよ。

第1問題

問1	ア	C (1点)	イ	B (1点)	ウ	E (1点)	エ	G (1点)
問2	知識及び技能 (2点)							
	思考力、判断力、表現力 (2点)							
	学びに向かう力、人間性 (2点)							
問3 (1)	視覚情報を児童生徒にとって見やすい文字サイズやコントラストに変換する。(3点)							
	視覚情報を音声に変換する。(3点)							
問3 (2)	児童生徒の目とタブレットPCの画面との距離を適切に保つように指導する。(3点)							
問4	(1)	○ (1点)	(2)	× (1点)	(3)	× (1点)		
	(4)	× (1点)	(5)	○ (1点)				

第2問題

問1	ア	B (1点)	イ	G (1点)	ウ	C (1点)
問2	(1)	A (1点)	(2)	E (1点)	(3)	C (1点)
問3	A (1点)		C (1点)			
問4	センター的 (2点)					

整理番号

(この欄は記入しないこと)

第3問題

問1	(1)	周囲の声や物音への過敏さに対して、刺激量の調整など学習環境への配慮を行う。(3点)						
	(2)	実態に合わせて下学年の内容を取り扱う。(3点)						
	(3)	タブレット型端末を使って視覚情報を効果的に活用する。(3点)						
問2	ア	権利 (2点)	イ	平等 (2点)	ウ	過度 (2点)	エ	差別 (2点)
問3	インクルーシブ教育システム (2点)							

第4問題

問1	コーディネーター (2点)							
問2	(1)	× (1点)	(2)	○ (1点)	(3)	○ (1点)		
問3	ア	目的 (2点)				イ	保護者 (2点)	
	ウ	教育支援計画 (2点)						

第5問題

問1	学校教育法施行令 (2点)							
問2	手を使った活動の際には、体幹を安定させ上肢を自由に動かせるようにする。(3点)							
問3	(1)	C (1点)	(2)	B (1点)	(3)	D (1点)	(4)	A (1点)
問4	B (1点)			D (1点)				

整理番号

(この欄は記入しないこと)

第6問題

問1	読んでいる部分を指で押さえながら読むよう促す。(3点)					
	音声やコンピュータで読みあげる。(3点)					
問2	言語障害					
	自閉症					
	情緒障害 (6点) 2点×3					
問3	(1)	× (1点)	(2)	× (1点)	(3)	○ (1点)

第7問題

問1	WISC (2点)
問2	音声教材 (2点)
問3	糖尿病 (2点)
問4	作業学習 (2点)
問5	暗順応障がい (2点)

整理番号	

(この欄は記入しないこと)